

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果
フランス語フランス文学科

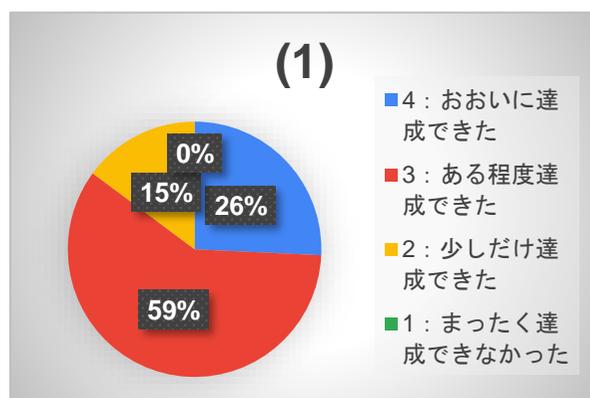
回収結果

学部	文学部				人間総合学部				合計
学科	国語国文	フ語フ文	英語英文	学部計	児童文化	発達心理	初等教育	学部計	
回答数	106	101	83	290	53	53	74	180	470
卒業生数	119	106	107	332	58	59	75	192	524
回答割合	89.1%	95.3%	77.6%	87.3%	91.4%	89.8%	98.7%	93.8%	89.7%

卒業生数には2020年9月卒業生、2021年3月卒業生を含む

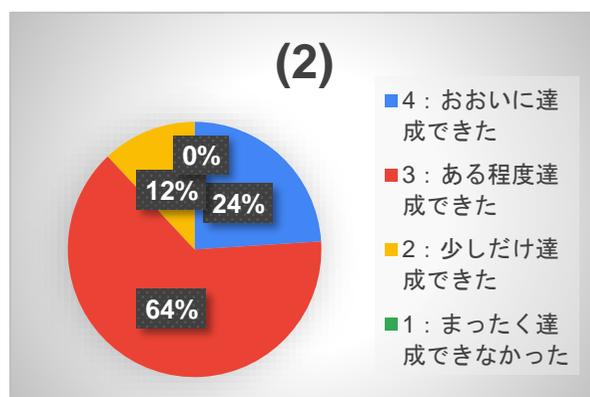
（1）時代を超えて普遍的に求められる豊かな人格形成をおこなうために、カトリックの人間観・世界観を理解するための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	26
3：ある程度達成できた	60
2：少しだけ達成できた	15
1：まったく達成できなかった	0
101	



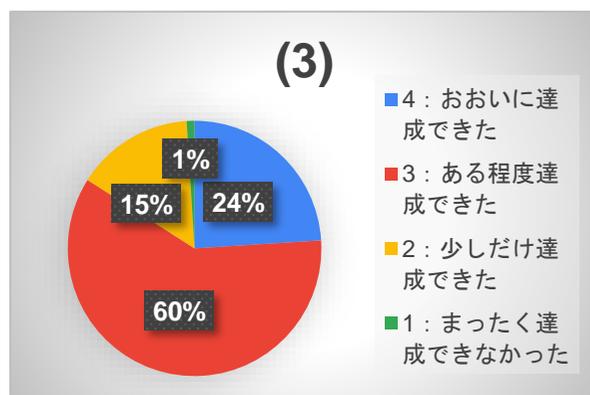
（2）時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、自己を発見する心を持つ自立した女性になるための基礎的な能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	24
3：ある程度達成できた	64
2：少しだけ達成できた	12
1：まったく達成できなかった	0
100	



（3）現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。

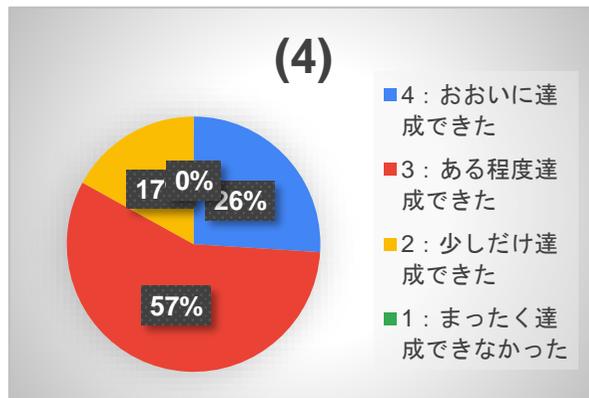
4：おおいに達成できた	24
3：ある程度達成できた	60
2：少しだけ達成できた	15
1：まったく達成できなかった	1
100	



学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果
フランス語フランス文学科

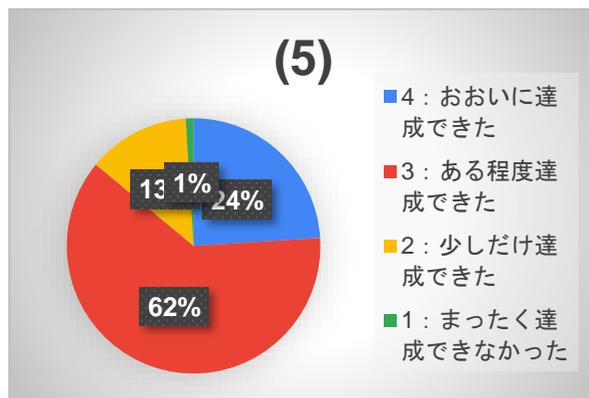
(4) 専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知見と技能を身につけている。

4：おおいに達成できた	26
3：ある程度達成できた	57
2：少しだけ達成できた	17
1：まったく達成できなかった	0
100	



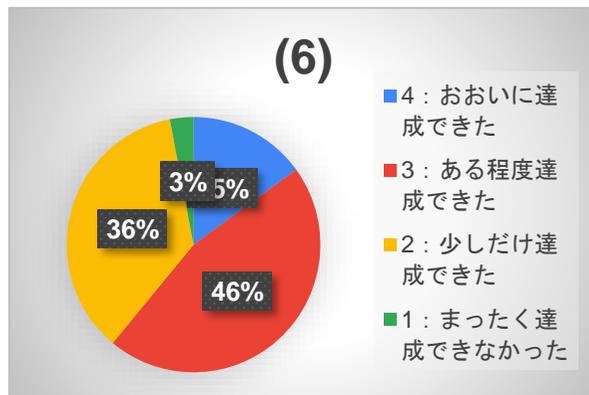
(5) 専攻する言語や文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。

4：おおいに達成できた	24
3：ある程度達成できた	62
2：少しだけ達成できた	13
1：まったく達成できなかった	1
100	



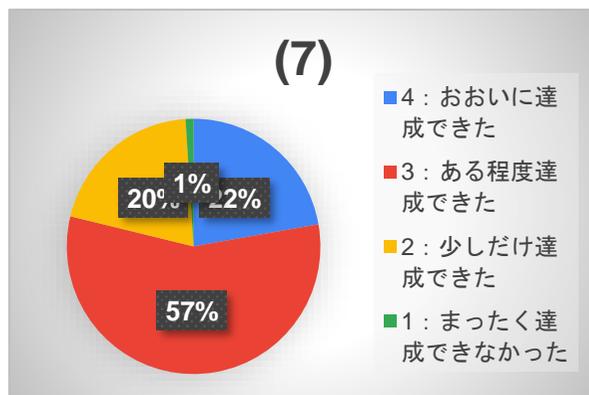
(6) 専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	15
3：ある程度達成できた	46
2：少しだけ達成できた	36
1：まったく達成できなかった	3
100	



(7) 異文化と自文化とを見渡す豊かな教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

4：おおいに達成できた	22
3：ある程度達成できた	56
2：少しだけ達成できた	20
1：まったく達成できなかった	1
99	

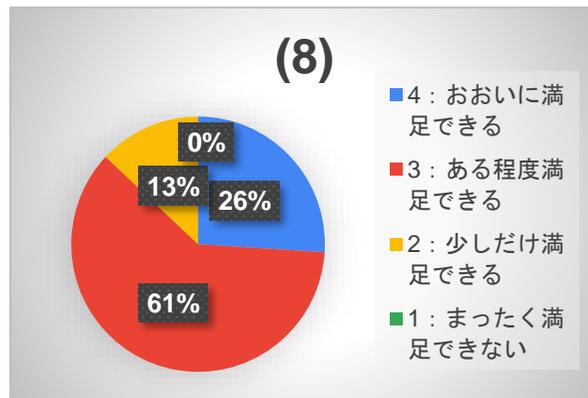


学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果
フランス語フランス文学科

(8) 大学4年間の学修を通じて、あなたは満足のいく成果をあげたと感じますか。

4：おおいに満足できる	26
3：ある程度満足できる	61
2：少しだけ満足できる	13
1：まったく満足できない	0

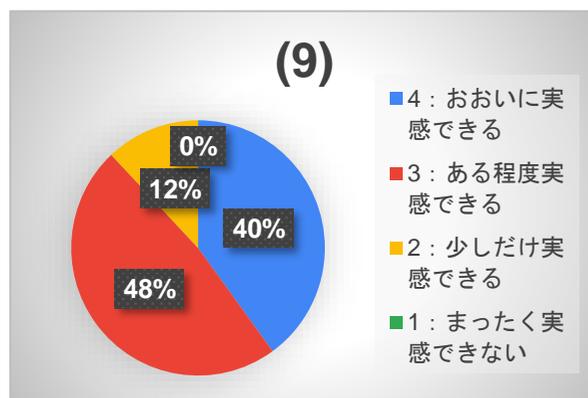
100



(9) 大学4年間の学修を通じて、あなたは自分が成長したと実感しますか。

4：おおいに実感できる	40
3：ある程度実感できる	48
2：少しだけ実感できる	12
1：まったく実感できない	0

100



2020年度卒業時アンケートに関する考察（フランス語フランス文学科）

文学部フランス語フランス文学科の卒業時アンケートの全体的な傾向として、「4おおいに達成できた」「3ある程度達成できた」をあわせた肯定的な回答が、設問（6）をのぞいて、ほぼ8割に達していることが挙げられる。とくに設問（8）、（9）が示すとおり、大学4年間の学修に対する総合的な満足度については、87%の卒業生が「おおいに満足」、「ある程度満足」できる成果をあげたと回答した。卒業生はフランス語フランス文学科での4年間の学びに満足していることが読み取れる。

（6）「専攻する言語について、高度なコミュニケーション能力を身につけている」という設問については、2019年度は「おおいに達成できた」、「ある程度達成できた」と回答した卒業生の割合が85%だったのに対して、2020年度は61%に下がった。この結果に関しては、新型コロナウイルス感染症対策のため、2020年度の授業が遠隔で実施されたことに加えて、2020年度からプログラム制が導入されたことが要因のひとつにあると考えられる。フランス語フランス文学科では、1年次に少人数制の語学クラスで基礎をかため、2年次以降は発展的な外国語学習と並行しながら、関心のある領域についての専門知識の獲得を目指し、学修の順次性に配慮した教育課程の編成を行っている。さらに、2020年度は「フランス語特別強化プログラム」の導入により、従来よりも水準の高いフランス語の授業を提供することになった。このことから、設問（6）について、学生が実感する達成度が低くなったと分析できるが、これは授業のレベルが上がった結果でもあるため、授業の充実度という点においては、必ずしもマイナスの結果ではないと結論できる。

学修成果に係る自己評価に関する卒業時アンケート（2020年度）集計結果 フランス語フランス文学科

外国語学習や異文化の理解といった専門的知識の習得に関する設問（3）、（4）について、83%の学生が「おおいに達成できた」「ある程度達成できた」と回答していることに加えて、（5）「特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる」という設問については、86%の卒業生が「おおいに達成できた」「ある程度達成できた」と評価していることは特筆すべきだろう。2020年度の卒業生アンケート結果から、カリキュラムポリシーに基づくフランス語フランス文学科の教育内容が十分な成果をあげていると言える。